

芹生谷（せるたに）遺跡公開説明会資料

はじめに

大阪府教育委員会は国道 309 号河南赤阪バイパス建設に伴って、河南町中で芹生谷遺跡の発掘調査を継続して実施しています。今回、道路予定地の北端約 200m について、平成 24 年 9 月より 2100 m²を発掘調査しました。

芹生谷の地は金剛・葛城山系の西斜面に位置し、古代より南河内と大和を結ぶ交通の要衝として重要な位置にあたるどころです。周辺は北に向かってなだらかに傾斜する斜面をひな壇造成したのどかな田園風景が広がり、河南台地とよばれています。現在も条里地割による水田区画を良好にとどめます。

今回調査地のすぐ南には『国史跡金山古墳(かなやまこふん)』（双円墳・全長 80m）があり、古墳の営まれた 6 世紀後半には、この地で活躍した豪族がいたようです。

今回調査では、同時期の竪穴住居跡（たてあなじゅうきょあと）・掘立柱建物跡（ほったてばしらたてもものあと）などが検出されました。

調査成果

今回の調査は、南北長さ約 200m、東西約 12m にわたって発掘調査しました。調査区は北半分を「1 区」、南半分を「2 区」としています。なお、1 区については建物跡の検出された部分をのぞいてすでに埋め戻しています。

【1 区】 北端は深い谷地形で、生活の痕跡は見られませんでした。

中央付近では幅 3.2m、長さ 3.0m 以上の 1 間×2 間以上の掘立柱建物跡（建物 1）が検出されました(写真 1)。建物 1 は主軸を北東から南西に向けます、これは付近の地形にそって建てられていることがわかります。建物 1 の付近から古墳時代後期(6 世紀後半)の須恵器・土師器などの土器が発見されました。

南端では長さ 8.0m、幅 4.2m の 4 間×2 間の掘立柱建物跡(建物 2)が検出されました(写真 2)。建物 2 の主軸をほぼ東西方向にむける東西棟で、東半分は総柱となります。西側に入口があって土間や台所となり、東側に居住空間があったと推定されます。建物 2 の周辺から南北朝時代の瓦質土器・土師質土器などが発見されています。また、中国製の青磁碗の破片も発見されています。

【2 区】 南端で一辺 5.4m、深さ約 0.15m の方形の竪穴住居跡（竪穴 2-1）と少しこぶりの（竪穴 2-4）が重なって検出されました(写真 3)。竪穴 2-4 を埋め戻した後に、竪穴 2-1 が建替えられています。竪穴 2-1 は地形にそって営まれ、1 区において検出した建物 1 と軸線がほぼ同じくし、約 200m 南に位置する金山古墳の方向に入口を向けます。竪穴住居跡の北側には造りつけカマドの痕跡が残されていました。住居跡からは古墳時代後期（6 世紀後半頃）の須恵器・土師器が発見されました。

北端では竪穴 2-1 とほぼ同規模で軸線を同じくする竪穴住居跡（竪穴 2-2・竪穴 2-3）が検出されました(写真 4)。竪穴 2-2 は北壁の中央に造りつけカマドをもうけ、四隅に支柱穴があります。竪穴 2-3 と竪穴 2-2 はほぼ重なるように作られています。竪穴 2-3 から竪穴 2-2 に建て替えられて、

同じ場所で生活が営まれたことがわかります。二つの住居からも、古墳時代後期（6世紀後半頃）の須恵器・土師器が発見されています。

まとめ

今回の調査では古墳時代後期の掘立柱建物跡が1棟、竪穴住居跡が4棟、南北朝時代の掘立柱建物が1棟検出されました。発見された土器などは古墳時代後期（6世紀後半頃）と南北朝時代（14世紀前半頃）のものが大半で、調査区の全域から発見されています。

ただし、現在の調査区周辺は水田区画が整備され、旧地形が大きく改変されています。今回、建物跡が残されていた部分は、かろうじて旧地形が残っていた部分に限られるといえます。

竪穴住居跡は6世紀後半頃のもので、大阪府内で発見された同時期の竪穴住居跡の中では大型に属します。また、わが国では旧石器時代以来、連綿と竪穴住居で生活が営まれてきましたが、今回発見の住居は府内では最終段階のものです。掘立柱建物を基本とする集落への移行段階を知る手がかりとなります。

その居住者は、地元 roots、伝統的な竪穴住居を好んだ人たちだったのかもしれませんが。あるいは、発見された土器が6世紀後半の一時期に限られることから、金山古墳を造営した造墓集団のキャンプ地だったのかもしれませんが。発掘調査は今後も継続して実施される予定で、集落の実態解明が期待されます。

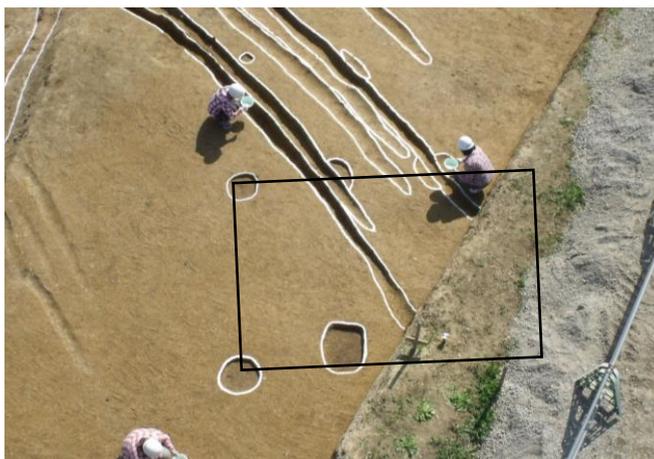


写真1 古墳時代の掘立柱建物（建物1）

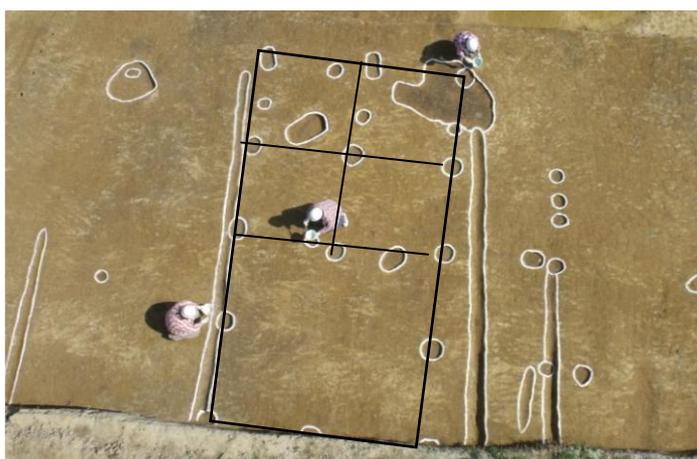


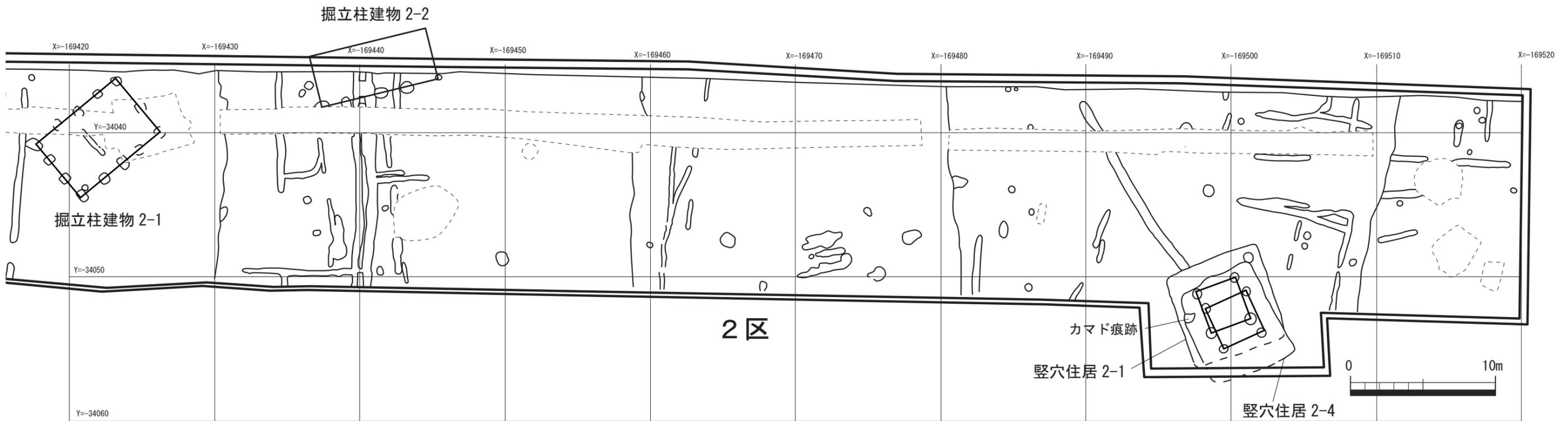
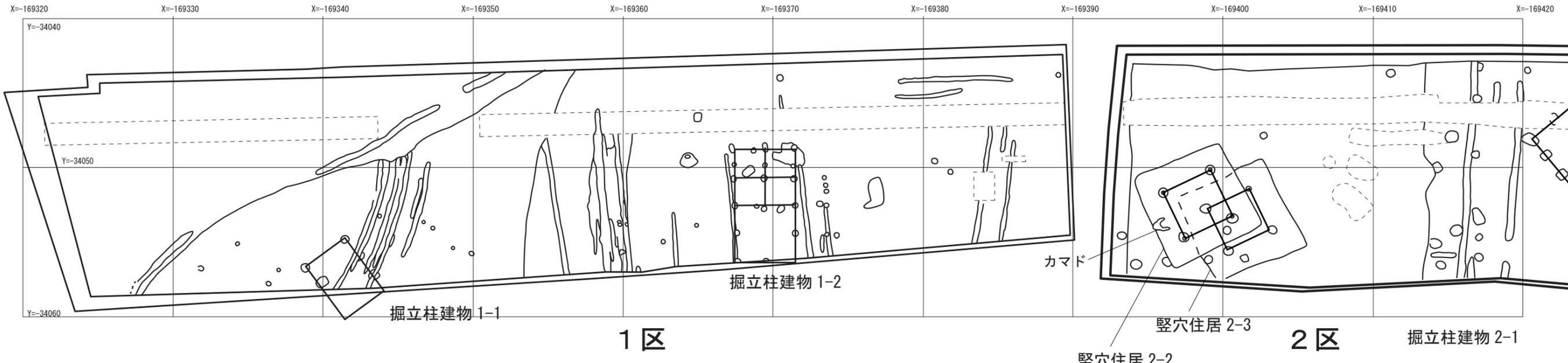
写真2 南北朝時代の掘立柱建物（建物2）



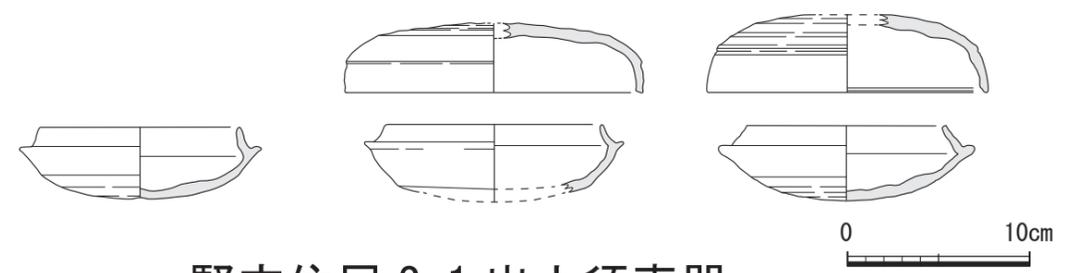
写真3 古墳時代の竪穴住居跡（2-1(右)・2-4(左)）



写真4 古墳時代の竪穴住居跡（2-2(上) 2-3(下)）



芹生谷遺跡遺構図



竪穴住居 2-1 出土須恵器